

彙 報

第 16 回九学会連合大会

5 月 12・13 日上野公園国立博物館において開催。本学会よりの発表者は：
共同課題「日本の地域性」・日本の方言分布

- | | |
|-----------------|--------|
| a. アクセントによる方言区画 | 金田一春彦氏 |
| b. 歴史的に見た方言意識 | 大野 晋氏 |
| c. 単語の分布 | 柴田 武氏 |

共同調査「佐渡」・ことばの意識の境界と実際の境界 野元菊雄氏

第 46 回日本言語学会大会

東京教育大学において昭和 37 年 6 月 2 日公開講演会, 6 月 3 日研究発表会・
総会を開催。

1. 公開講演会:

- | | |
|--------------------------------|-------|
| ダンテの言語観 | 野上素一氏 |
| ヨーロッパにある満洲語文献について (終了後 8 ミリ上映) | |
| | 池上二良氏 |

2. 総会: 昭和 36 年度会計報告 (別記) を承認, 外に下記事項を報告, 承認

- 会費を年 1000 円 (学部学生 800), 海外会員 \$4.00 とする件。
- 北村甫氏に委員を委嘱するの件。

3. 研究発表会

- | | |
|---|----------|
| 1) 骨格と言語 | 富永道夫氏 |
| 2) 発音錯倒の問題 | 原田正春氏 |
| 3) 古代ジャワ史 Nāgarakṛtāgama におけるサンスクリット借用語
について | 西脇 博氏 |
| 4) 高句麗語資料および若干の日本語・高句麗語音韻対応 | 村山七郎氏 |
| 5) 西夏国字典同音の同居韻について | 橋本万太郎氏 |
| 6) ある地域社会内での学童のアクセント変化 | 馬瀬良雄氏 |
| 7) ベンガル語の音韻 | 青柳精三氏 |
| 8) 存在・性状・判断の表現の言語理論 | サクマ・カナエ氏 |

昭和 36 年度最終回委員会

日 時: 昭和 37 年 2 月 20 日 17:00—21:00

場 所: 東大正門前ポルト

出席者: 岩井隆盛, 金田一春彦, 小林英夫, 柴田武, 鈴木孝夫, 服部正己, 前田
護郎, 三根谷徹, 村山七郎, 山本謙吾

議決事項：

1. 第 46 回大会は東京教育大学において同大学言語学研究室との共催により行う。
2. 大会の運営を円滑に行うため大会運営委員会を組織して運営を一任する。
 - 1) 同委員会は大会開催のつど組織する。
 - 2) 大会運営委員長は原則として開催地関係会員のなかから委員会が委嘱する。

昭和 37 年度第 1 回委員会

日 時： 昭和 37 年 4 月 14 日 17:30—21:00

場 所： 学士会館本郷分館

出席者： 泉井久之助，高津春繁，河野六郎，小林英夫，柴田武，鈴木孝夫，徳永康元，服部四郎，前田護郎，三根谷徹，村山七郎，山本謙吾

議決事項：

1. 第 46 回大会について，運営委員長を熊沢竜氏に委嘱，その他の細目を決定。
2. 会費を昭和 37 年度より 1000 円（学部学生 800 円），海外会員 \$4.00 とする。
3. 第 9 回国際言語学者会議へ派遣する本会代表は小林英夫氏とすることを確認。

昭和 37 年度第 2 回委員会

日 時：	(1) 昭和 37 年 6 月 2 日	12:00—14:00
	(2) " 6 月 2 日	15:10—16:30
	(3) " 6 月 3 日	12.30—13:30

場 所： 東京教育大学

出席者：（ ）内数字は委任状受託数，×は 6 月 2 日，△は 6 月 3 日欠席。

浅井恵倫，池上二良，×泉井久之助 (3)，△岩井隆盛，高津春繁，河野六郎，△小林英夫 (1)，柴田武 (1)，鈴木孝夫，関本至，徳永康元 (2)，西田竜雄，野上素一 (1)，△野村正良，長谷川松治，服部四郎 (5)，服部正己，△前田護郎，三根谷徹，村山七郎，山本謙吾（委員総数 36 名）但し，柴田，服部四郎の受託数は 6 月 3 日はそれぞれ (0)，(4) となる。

議決事項：

1. 昭和 37 年度秋季大会（第 47 回）の件：
 - 1) 運営委員長を金沢大学法文学部助教授鈴木直治氏に委嘱する。
 - 2) 開催日は昭和 37 年 10 月 27・28 日
 - 3) 講演者は 2 名とし，1 名は一般言語学関係，1 名は方言学について依頼

する。方言学についての講演は柴田武氏か金田一春彦氏に依頼する。

2. 昭和 38 年度大会開催地の件：

春季は第一候補・東京外語大学，第二候補・慶応大学，秋季は第一候補・東北大学，第二候補・京都大学とする。

3. 第 9 回国際言語学会議代表派遣の件：

1) 報告：本会代表として出席する小林英夫氏の旅費を学術会議に申請したが，5 月 8 日付で交付が決定された。

2) 小林英夫氏が万一出席できない場合，事情により，かわりの代表を派遣する。

4. 日本学術会議第 6 期会員候補推薦の件：

泉井久之助氏（全国区），服部四郎氏（全国区），浅井恵倫氏（地方区）が他の機関から推薦されて立候補した場合，本人が希望するなら，本会もそれらの機関と連携して三氏を推薦し，上記三氏と同一選挙区から立候補する他の候補者は推薦しない。

5. 学会運営について：

1) 編集委員の総数（編集委員長を含む）は奇数とし，編集委員の一名は委員長とする。（本年度は委員の数は 7 名となる）

2) 「言語研究」の刊行については，委員長，刊行委員，会計担当委員から成る小委員会を設けて，その予算経費を検討する。

3) 投稿規定に従わない論文を掲載する場合，規定に従わないために要する費用は投稿者が負担する。その決定は上記小委員会が，そのつど行う。

4) 会員が委員会にオブザーバーとして出席することを原則として認める。

5) 北村甫氏に委員を委嘱する。

- ◇本会評議員・委員長服部四郎氏，同委員村山七郎氏は，米国 Indiana 大学において 6 月 4 日～9 日に開催された Permanent International Altaic Conference (PIAC) の第 5 回 Meeting に招かれ出席。
- ◇本会委員北村甫氏は，北イタリアの Bellagio で 7 月 3 日～8 日に開催された Conference on Tibet に招かれて出席，その後欧米各地のチベット研究機関を視察，8 月 1 日帰国。
- ◇上記服部四郎氏は，米国 M.I.T. において 8 月 27 日～31 日に開催される Ninth International Congress of Linguists の実行委員会より招待を受け，Section Meeting on Structural Semantics の Chairman に選任されたので，同会議に出席する機会に，米欧の大学・研究所・語学教育機関等を約 3 カ月視察のため，7 月 17 日羽田発。
- ◇本会評議員・委員小林英夫氏は，本会代表として上記 Congress に出席のため 8 月 24 日羽田発。

委員会規約

委員会

1. 委員会は会員より選出された委員(30 名以上)を以て構成する。
2. 委員会は会員を代表して会の運営に当たる。
3. 委員会は委員長 1 名を置き，全委員の互選によりこれを選出する。
4. 委員長(または委員長の委嘱した代理)は必要に応じて，あらかじめ審議事項を全委員に通知した後に，委員会を招集することができる。
5. 委員会の定足数は全委員の 2 分の 1 (委任状*による参加者を含む) 以上とする。
6. 受任者欠席の場合には，委任・受任両者の票は無効とする。
7. 委員会の議決は出席者(委任状による参加者を含み白紙委任状による者を除く)の過半数により決定する。但し，委員会が重要事項と認めたものについては 3 分の 2 以上の賛成を要する。

8. 白紙委任状*は委員会の議決を支持するものと認める。
 9. 委員長、編集委員長、重要な国際会議(別記)へ派遣の代表、日本学術会議会員候補者の選出は、全委員の無記名投票による。
 10. 委員会はその議決事項を会長・副会長・全評議員に諮り、会員に報告する。
- * 委任状の文面は「...委員会における審議に参加し議決権を行使することを
氏(同氏欠席の場合には 氏)に委任する。」とする。受任者名の書きこみなきものは白紙委任状と認める。

委員長並びに編集委員長の選出方法

全委員の互選による。但し、同一人が委員長と編集委員長を兼ねることはできない。

互選は、全委員名を連記した投票用紙を全委員に配布し、委員長候補者に◎、編集委員長候補者に○の印を、それぞれ一つずつ記入する無記名式投票による。

◎印、○印をそれぞれ二つ以上記入した場合には、その二つ以上の印に関しては無効とする。

有効票を集計し、その過半数を得た者を当選者とする。まず委員長を決定し、次いで編集委員長を決定する。

過半数得票者がいないときは、上位者 2 人を選び、委員会において決選無記名投票を行う。

編集委員は委員の中から編集委員長の指名により決定する。但し編集委員の総数(編集委員長を含む)は奇数とし、うち 1 名は委員長とする。

重要な国際会議への派遣代表の選出方法

日本言語学会が重要な国際会議(下記)の通知を受け(代表派遣の要請を受け)た場合には、その旨を『言語研究』に公表して、会員の中から候補者を募る。(その日時がない時は会長、副会長、全評議員および全委員に通知して、できるだけ広く会員に知れるよう取計らう。)

候補者の名前を連記した投票用紙を全委員に配布し、候補者 1 名に○を記入、無記名投票する。但し 2 人以上の候補者名に○をつけた票は無効とする。

有効票を集計し、得票数の多いものより順位を決める。

第一位者の得票数が過半数に達しないときには、委員会において上位者 2 人について第一位者決定の無記名投票を行う。

重要な国際会議とは、例えば下記のもので、その他についてはその都度委員会において決定する。

International Congress of Linguists

日本学術会議会員候補者の選出も上に準ずる。

お 知 ら せ

会費値上げについて

本会の会費は昭和 37 年度から普通会費年 1000 円 (学部学生 800 円), 海外会員 \$4.00 に値上げすることになりました。最近印刷費の値上がりが続き、会費の集まりが悪いと『言語研究』の刊行に支障を来す状況ですので、会員各位の御協力をお願いします。

なお本会は会費前納制をとっていますので、未納分および次期会費を至急お納め下さい。

昭 和 36 年 度 会 計 報 告

前年度繰越金	3,782	印 刷 費	331,570
会 費(現金)	141,541	発 送 料	41,898
" (振替)	175,180	大会・講演会費	32,703
雑誌売上	26,715	通 信 費	32,854
補 助 金	80,000	事務用品費	3,325
利 息	475	九学会分担金	3,000
		文哲史連合費	3,000
		雑 費	17,497
計	427,693		465,847

差 引 残 高 -38,154